尊い命だ安売りできるか

仕ぐ仲間立ち上らせたCO闘争

政府や三井の重なる背信と、三池新労幹部や民社党の悪質な妨害をけって、不屈に闘いつづけている〝CO闘争〟が、広島・長崎の原爆被爆者をゆり動かし、決起させたことは知らぬ者がいない。ところがその後の推移はこのCO闘争が、全国の仕ぐ仲間の間にますます影響力を広げ、いまや「仕ぐ者の尊い命だ、安売りできるか」と、生命を守る闘いに立ちあがらせつつある。

福田さんの死が契機
大幅補償勝ちとる

全鉱三煉労組

全鉱・三池製煉労組はかねて会社側に組合員が労仕災害によって死亡した場合、三百万円の死亡災害補償金を支払え、と要求し闘っていたところ、このほど「そのような場合、百二十万円を支給する」との協定を闘いとることができた。

こんどの要求と闘いは全鉱という産業別単産の規模において、全鉱全山の二十四時間ストライキ（三月二十六日）などの実力行使を伴って闘われた成果である。

三池製煉においては、昨年九月九日、会社側の保安サボが生みだした労仕災害のため、福田さんという一人の若い活動家の命がうしなわれている。

従来この種の死亡の場合、三井金属には口にするほどの補償金などなかったし、そんな場合だれもが労災保険よりの給付だけで泣き寝入りのまま、悲しみの涙をのみこんできたものだった。

福田さんの死が自覚を高めた

しかし福田さんが殺されたこんどの場合、労仕者は会社側のこれまで通りの冷たい仕うちを許さず泣き寝入りすることにあまんじなかった。それというのも「大地評の執行委員会などで、具体的なCO闘争の情勢報告とともに、仕く者の生命を守ることの意義が三池労組からうったえられると、だれしもが『そうだ、命を安売りすることは許されん』という気持にならざるをえなかった」――とのこと。三煉労組の一執行委員の言でも明らかなように、三煉労仕者の自覚が高まってきたからにほかならない。

それを察してか会社側は、これまでと違って、福田さんの死に対して「五十万円の弔慰金を支給しよう」といってきた。組合側が拒否したことはいうまでもない。

そのような経過にもとづき、ついに「三百万円」の全鉱要求となり、はてはこんどの成果となったのである。

たとえ組合員は二百人でも

現在、三池製煉労組の組合員数は、第二組合員数の千九百人に比べ二百十人しかない。四十一年六月の分裂攻撃のはげしさを物語るが、しかしそれでも同労組はガッチリと第二組合員の心をつかんで闘いをすすめているからこそ、こんどの成果をえることもできたのである。

それにしても百二十万円の補償金は、もちろんまだまだ安過ぎる。だがこれを端初にして、これから必ずやますます発展するだろう全鉱・三煉労組の「生命を守る闘い」に大きく期待しておくとしよう。

災害思えば三百万円は最低
化学労働者も立つ

東圧労組は四月一日会社に対して、労仕災害補償の大幅ひきあげを要求した。その中に災害死亡の場合「遺族に三百万円の補償を行なえ」の要求が含まれているが、この種補償は、労災保険よりの補償によるほか、同企業にはこれまで一文もなかったことからすれば

コークス炉部門に働く仲間は、闘いをすすめるにも真剣だつた。（三化労組での集会）

組合要求ほぼ通る
だが今後が大切と決意

三化・三合の両労組はコークス部門の分離に反対する闘争をすすめてきたが、さる八日の会社回答が、組合側がかねて要求していた労仕条件を大幅に受けいれたことによって、その後協約交渉にうつった。問題の協約が、三化労組によれば、八日会社が提示してきた回答通りで成立すれば、コークス炉分離はひとまず認めることとなる。

会社が分離にあたって、現在同炉部門で仕いている両労組の組合員を「休転派遣」とするが、それには休転派遣期間を「退転までとする」「希望があれば三井化学へ復帰させる」「労仕条件は三井化学のものを適用する」「生産縮小経営参加を放棄することあれば、三井化学へひきとる」…などが確約されている。

こんどのことについて三化労組の組合員は「これだけとったのだから分離はやむをえんが、会社はいつ裏切るかわからんし、これからも団結してゆくことが大切だと思う」と早くも今後への決意を固めている。

三合・コークス・三化の問題

こんどの要求は注目に値する。

三化・三合の両労組も業務上の組合員の死亡の際は、東圧労組同様三百万円を補償せよ、と要求している。中でも去月二十七日河口勝馬さん（三十才）という一人の仲間の命を災害のためうばわれたばかりの三合労組の組合員の要求は強く、一人の若い組合員は語った。

「三百万円は最低ですよ。石油化学への質的変化が化学産業に見られるとき、災害はふえる一方です。三池のCO闘争に学んで、私たちも生命を守る闘いにがんばるつもりです」

「こんなにも安い労働者の命の値段」
訴える〝あしなみ〟

ゼオン労組新聞

どの単産にもまだ加盟していない組合の一つに、日本ゼオン労組がある。現在〝みいけ〟と機関紙を交換しているが、このごろ送られてくる機関紙の〝あしなみ〟は毎号のように「生命を守る闘い」の意義を組合員に訴えている。

四月四日発行の百四十四号などとくに特徴的で「もしオレが労仕災害で殺されたら、女房子どもはどうなる。可愛いい子どもやカアちゃんのために、大幅賃上げとともに、いのちの値段をひきあげる闘いを強めよう」と訴えている。

しかも同記事は、現在の日本の仕く者の十人に一人が転業病患者である事実にふれるとともに、それに対して労災保険からの遺族補償の全支払い実績が、いかに現実に対して冷たいものかについて明らかにしている。

「たとえば昭和四十年の場合、約七千人に対する補償金総額が約六十三億円ですから、一人当たり九十万円です。労仕者の生命の平均値段は九十万円だということです」

さらに同記事の次の項も注目すべきである。

「四十二年八月一日から、自動車事故による死亡者に〝自動車損害賠償法により支払われる補償金は、最低三百万円になりました。労災補償の倍以上です。運輸審議会の大勢はこの三百万円を、五百万円にひきあげよという意見です。

フランス、西ドイツなどの例は一千五百万円から二千五百万円です。航空事故の場合八百万円でしたが、安すぎるといって訴訟になっているのです。

労仕災害による労仕者の死亡に対する補償がいかに安いかがわかります」

なお、日本ゼオン労組が「労仕災害の補償」をめぐるあらゆる要求で、闘いに立ちあがっていることは述べるまでもない。

豆ニュース

青梅事件控訴審、全員無罪。十五年のたたかい。謀略の厚いカベを破る。

× × ×

抜き打ち開設の米軍王子野戦病院に患者第一号。エプロンデモ激しさを増す。

× × ×

政治資金規制自民党調査会案。大企業の寄付はほぼ無制限。金なくてなんの自民が政治かな。

× × ×

運信費三万円引き上げた国会議員。議員報酬増額もあちこちで。春闘の苦労もなしにネ。

あの日の感激忘れず頑張ります
―『みいけの闘い』を見て―

都城　戸高悦子さん

前略ご免ください。

先日は宮崎で〝三池の闘い〟を見せていただきまして、有難うございました。関係者の皆様方をはじめ、ご出演の方々、ほんとうにお疲れさまでした。

この劇のあらゆる場面の一つ一つの行動が、いまも私の頭の中をはしります。

出演者一人一人の血と汗ににじんだ顔。力強く歌われる合唱の響きに、自分も、明日の社会を築き上げていく仲間の一人なのだ、という勇気と誇りが強く湧いてきました。

一つ一つの言葉を胸に刻みこみながら、いつしか母とともにせいいっぱいの声援を送っていました。

そして私たちと同じ席にいるすべての人びとが、いましっかりとこの劇を通じて結び合い、それぞれ何かを考え、何かを吸収しておりそこには何の差別もない美しく生きようとする人間の姿だけが、壇上から客席から呼び合っているのに気づきました。

私たち仕く者は、一人では自分の体を生命を守ることはできないのだ、仲間とともに団結すれば守ることができよう、そのことをしみじみ知りました。そしてCO患者の生命も、このような団結した仲間の手でこそ守ることができることを、信じることができました。

合唱詩劇〝三池の闘い〟は、その幕があくともう、出演の方々のすばらしい団結力が、私たちをその中に溶けこませてくれたことは何よりもうれしいことでした。

やがてくる新しい未来への道に一歩一歩近づくため、力の限り闘っていくことが平和への道につながるのではないでしょうか。これから私は、この日の感激を忘れずに学び、努力していきたいと思います。

最後に三池労組の皆様方のご健闘をお祈り致し、CO患者の皆様方の一日も早く回復されますことを祈りながら、私たちも一生懸命頑張ってまいりたいと思っています。

×

（合唱詩劇〝三池の闘い〟宮崎公演を見てくださった方から、組合に寄せられてきた便りです。戸高悦子さんのご住所は「宮崎県都城市上金田二〇四九」です）

◎　◎